

「^{がくしゅう}楽習」コラム

内田伸子先生からの
子育て応援メッセージ

「たのしく・あそぶ・まなぶ・そだつ」「楽習」
今回からは、子育てにまつわる悩みや心配事に、
内田先生がやさしく答えてくださいます。
内田先生の語ってくださる子どもの発達の姿の中には、
子育ての迷いを解きほぐすヒントがたくさん隠れています。



お話をお聞きしたのは

内田伸子先生

十文字学園理事・十文字学園女子
大学特任教授、筑波大学客員教授、
お茶の水女子大学名誉教授、学術
博士。発達心理学、認知心理学、保
育学を専門とする。著書に「子育て
に「もう遅い」はありません」(富山
房インターナショナル)など多数。

「図鑑型」の子ども 「物語型」の子ども 編

お悩み

『うちの子はひとり遊びが好きで、
友だちの輪に入っていこうとしません。
どうしたら、友だちとなかよく遊べるようにな
るでしょうか?』

以前、私の研究室で、生後10か
月の赤ちゃん80名を対象にして、
大型ロボットを使った研究をした
ことがあります。

プレイルームで子どもとお母さ
んに遊んでもらっているときに、
大型ロボットを赤ちゃんのそばに
置いて動かすと、どの赤ちゃんも
はじめはビックリしたような顔で
見つめています。しかしその後の
反応は、ふたつに分かれました。

ひとつは「お母さん、これ何?」
という表情をしてそばにいますお母
さんの顔を不安げに見上げてまし
た。このタイプの子どもは、80人
中48人いました。
残りの32人は、大型ロボットに

釘づけになっていました。このと
きの赤ちゃんは「おもしろそう!」
というような好奇心いっぱい表
情をしていました。

おもしろいことに、その後1歳
半のときに同じ実験を繰り返して
も、それぞれの人数の比率は変
わりませんでした。どうやら、赤
ちゃんのころから「気質」「性格」
というものはある程度できている
ようです。

私は、お母さんに問合せた子ど
もを「物語型」、大型ロボットに興
味を引かれてじっと見つめた子ど
もを「図鑑型」と呼んでいます。

物語型は人間関係に敏感で、
言葉も「おはよう」「こんにちは」

など、挨拶や感情を表現する言葉から覚えていきます。

図鑑型はモノやモノの成り立ちや動きに興味をもち、「おっこちた」「なくなっちゃった」「ピーポピーポいつてる」などの動詞も覚えやすい。また、物の名前もたくさん覚えるのです。

どちらがいい悪いという話ではなく、子どもにはそれぞれの個性があるということです。

「おぎゃあ」とこの世に生まれたときは泣いてばかりでどの赤ちゃんも同じように感じるかもしれませんが、その内側ではしっかりと個性が育まれているのです。

たとえば図鑑型の男の子は、外でみんなとヒーローものの遊びをするより、家で積み木遊びをしたり、自動車が載っている絵本を繰り返し読むのが好きかもしれません。物語型の女の子はこっこ遊びが大好きで、くもの巣を見ても「見て、天使が踊ってるの」と想像の世界に入っていくでしょう。

子育ては一人ひとり違うから

最初はみんなと離れて砂遊びをしていたり、ひとりでおもちゃで遊んでいても、そのまま見守っています。

友だちが興味をもって近寄ってきたときに、「一緒に遊ぼうね」と声をかけてあげると一緒に遊び始めるかもしれません。

もし、ほかの子どもの遊んでいる様子をじっと見つめていたら、「あのスコップいいね」と子どもの気持ちにくみ、お母さんがみんなの輪の中に入って「それ貸してもらっていい？」と声をかけるなど、お手本を見せてあげるといいでしょう。スコップやバケツなどおもちゃを用意していつて、そのおもちゃを介して遊ぶきっかけをつくるのもひとつの方法です。

徐々に友だちがいる環境に慣れてきたら、子どもは家にいるときと同じように元気になるでしょう。

大人でも大勢の友だちとにぎやかに食事をするのが好きな人もいれば、ひとりで読書をするのが好きな人もいます。自分なりの人と

おもしろいのです。みんながみんな、本や雑誌に書いてある通りのことしかない子どもばかりなら、無味乾燥な子育てになってしまうでしょう。

図鑑型の子どもは、友だちよりもおもちゃなどの「モノ」に興味があり、友だちとの関わり方が苦手なタイプです。一方、物語型の子どもは友だちと関わるのが上手なタイプで、すぐに友だちができます。

親としては、後者のほうであってほしいと思うかもしれませんが。

けれども、図鑑型の子どもに対して「ホラ、みんな遊んでいるよ」と手を引っ張って仲間に入れようとすると、子どもは嫌がって泣き出すでしょう。無理強いすると、子どもはさらにほかの子ともに関わるうとしなくなってしまう。

図鑑型の子どもの繊細で内気な傾向があるので、外ではなかなか自分の気持ちを伝えられないかもしれません。そういうときは、お母さんが上手にサポートしてあげましょう。

の付き合い方は自然と身につけていくものではないでしょうか。

また、大人になるにつれ、図鑑型と物語型の区別はハッキリとはしなくなります。いろいろな人と関わる中で、自分の気持ちをコントロールすることができるようになります。やがてバランスよく両方を兼ね備えるようになるので、図鑑型の人でも上手に人の輪に溶け込めるようになるでしょう。子どものころはおとなしくても、大人になると活発で活動的になる人も大勢います。

今のうちは友だちと遊ぶのを嫌がっても焦らず、お母さんは子どもの上手な「サポーター」になりましょう。

ちなみに、大型ロボットを見て怖がった物語型の子も、お母さんが「大丈夫よ」「ワンちゃんかわいいわね、カワイイカワイイして」とにっこりすれば、安心して触ります。親は子どもを次のステップへ導く橋渡しになっているのです。

